

株式会社 エイワット
代表取締役 柴田 政明



講演概要

「小水力と地域活性化」

人類の歴史は、水、流域と共に、生活し、進化してきた。日本にも、たくさんの山々があり、河川があり、流域で生活をしている。ただ、護岸工事が進み、山から海までの流域の生態系が変わってきた。そうなれば、流域の作物、海産物にも影響が出てくる。そのような中で、山間部は高齢化が進み、限界集落が増えてきている。これからは、再度、流域計画を立てながら、小水力などの再生可能エネルギーを活用することが大切である。そしてそれらを活用してEVを走らせたりすることが、スマートコミュニティなどの実現につながっていく。それが、環境に配慮した地域活性化につながることに思われる。

1957年3月28日

■業界：エコビジネス・環境・エネルギー・エコクリエイティブ

■現職：株式会社 エイワット 代表取締役

自然エネルギー協会会長

NPO-EE ネット理事長

NPO-次世代エネルギー研究所副理事長

■経歴：1980 追手門学院大学 経営学部経営学科卒業

1994 株式会社 エイワット 代表取締役

2001 京都リサーチパーク・エコビジネススクール校長

2001 滋賀県新旭町自然エネルギー学校教頭

<NPO、NGO 経歴>

・学校ピオトープネットワーク (NPO) 運営委員

・自然エネルギー促進法推進ネットワーク運営委員

<公的機関>

・滋賀県新旭町地域新エネルギービジョン策定委員

・大阪府枚方市地域新エネルギービジョン策定委員

・近畿経済産業局 研究会委員

自律循環型地域経済システム構築調査研究会

・都市基盤整備公団 研究会委員

街づくりにおける風力発電利用の研究会

・福岡大学 非常勤講師

■ 企画運営プロジェクト

・2001 21世紀自然エネルギーシンポジウム (NEDO支援事業)

・2002 マーシャル諸島自然エネルギープロジェクト (草の根ODA)

・2002 国際エネルギーフォーラムプレイベント・自然エネルギーフォーラム企画運営

・2004 千葉県エコライフフェスタ IN 鴨川 (環境省・鴨川市)

・2007 パプアニューギニア自然エネルギープロジェクト

■ 参加プロジェクト

・GLAY EXPO IN HOKKAIDO (ARTISTS POWER)

・アースディフォーラム (坂本龍一氏企画)

・ECOLO MUSIC (共催 環境省・TOKYO FM)

・エコライフフェア 2004 (環境省)

・本来のモノづくりの経験を生かし、自然エネルギー事業を推進するとともに、エコロジーに関する様々なプロジェクトに参画しています。自然エネルギーを通じて地域のビジョンづくり、活性化プロジェクトの企画、運営を行っています。

■ 講演・講義等 (抜粋)

・ふくい21世紀セミナー～森の新時代～

基調提案「ローカルエネルギーネットワークの可能性」 北欧自然エネルギー見聞記

主催：福井県農林漁業大学校、ハツ杉森林学習センター

・第5回環日本海自然エネルギーシンポジウム

基調講演「最近の新エネルギーの動向」

主催：NEDO (新エネルギー産業技術総合開発機構)

・循環型社会イニシアティブ

環境と経営セミナー「次世代エネルギー」講演

主催：(株)インテージ グリーンマーケティング研究所

対象：アサヒビール、麒麟ビール、サッポロビール、サントリー、花王、エーザイ、積水インテグレート、関西電力、オムロン・・・等の管理職

http://www.icfs.jp/seminar/seminar_e030220.html

・「ものづくり企業の多角化戦略」～環境分野で活路をひらく～ 講演

主催：大阪商工会議所

対象：大阪商工会議所会員

・おおさか自治体学校 サスティナブル・シティ大阪をめざして

講演「環境の世紀のものづくり」

主催：自治体問題研究所

・京都リサーチパーク「エコ・ビジネススクール」

ミッション経営 6ヶ月・6講座 スクールリーダー

主催：京都リサーチパーク、(株)エイワット、グリーンベンチャー研究会

・自然エネルギー利用交流セミナー 新エネルギーキャラバン in 大阪

講演「小型風力発電、小水力発電の現状、課題と今後の展望」

主催：大阪府、NEDO 技術開発機構

・アサヒビール環境文化講座「人と未来と環境をつなぐ」講演

主催：アサヒビール(株)

・ecofes @ORBIS HALL 2008 「ECO TALK 柴田政明×坂本美雨」

主催：E・C・O project 実行委員会 後援：環境省、経済産業省、神戸市他

・外務省地方連携フォーラム 「環境国際協力を考える」

パネルディスカッション「環境国際協力を考える」パネリスト

【講師/パネル・ディスカッション パネラー】

■柴田政明(しばた まさあき)氏

株式会社エイワット 代表取締役。1957年生まれ。追手門学院大学 経営学部経営学科卒業。自然エネルギー協会会長。関西環境取引所 代表理事。NPO-EE ネット理事長。NPO-次世代エネルギー研究所副理事長。NPO-環境エネルギー農林業ネットワークマダガスカル再生可能エネルギー部長。福岡大学非常勤講師。



1982年株式会社栄和鉄工所(現・株式会社エイワット)に入社。1972年創業以来金属加工業を軸として活動してきた先代の後を受け継ぐ。環境関連機器、防衛庁、原子力関連の機器の製作に携わる。1994年株式会社エイワット代表取締役就任、現在に至る。

1997年デンマーク、ドイツ、モナコに環境・エネルギー視察に行き、環境政策、再生可能エネルギー技術などを学ぶ。帰国後、再生可能エネルギーの開発・製作に取り組みながら、普及推進のためNPO、NGO活動などを始める。1999年市民出資の太陽光発電所を自社の屋根を活用して立ち上げ、市民共同発電所を全国に広める。

2001年坂本龍一さん、GLAYのTAKUROさんなどとともにArtists' Powerを立ち上げ、Artistたちとともに自然エネルギーの普及推進を始める。その後、「GLAY EXPO 2001 IN 石狩」「坂本龍一 コンサートツアー」「Re-Style Live (環境省)」「エコライフフェスタ IN 鴨川 (環境省)」「国際エネルギーフォーラム/自然エネルギーイベント」などのイベントで自然エネルギーの企画・運営などを行う。

2001年滋賀県新旭町(現・高島市)で自然エネルギー学校を開校。同年9月都立リサーチパークでエコビジネススクールを開校する。

2002年マーシャル諸島に大阪南太平洋協会のプロジェクト(草の根ODA)で太陽光発電・風力発電装置を設置、現地指導を行う。2004年スリランカ・マハベリ灌漑庁のメンバーとともに小水力発電の事業可能性調査を行う。2005年バングラディッシュにて小水力発電の事業可能性調査を行う。2007年堺市インドネシア交流ミッションに副団長として参加、現地で環境・エネルギー技術交流セミナーを開催。同年5月インドネシアのイスラムのプサントレン(学校)より招待を受け、DESA(村)、DAMEI(平和)、MANDERI(自立)のプロジェクトに参加する。

2007年上海にて環境・エネルギーセミナー開催。同年パプアニューギニアに太陽光発電・風力発電装置を設置、現地指導を行う。2008年EEFAプロジェクトとしてマダガスカル共和国大統領マルク・ラヴァルマナナ大統領を訪問、農業、工業、エネルギーの専門家と技術交流、現地視察を行う。

国内では、滋賀県新旭町、大阪府枚方市などの新エネルギービジョン策定委員。自律循環型地域経済システム構築調査研究会委員(近畿経済産業局)。街づくりにおける風

力発電利用の研究会委員(都市基盤整備公団)など各省庁、市町村のアドバイザーを務める。業務としては洲本市新エネルギービジョン策定業務、大阪北部地域における次世代エネルギーパーク整備検討業務(大阪府)等、環境・エネルギーのコンサルティング業務を行う。京都府、和歌山県、大阪府などで小水力発電の設置及び研究事業を行う。2008年9月関西環境取引所を開設、省エネルギー、新エネルギーを推進するとともに排出量取引に取り組んでいる。その他、公的機関、学校、企業等、さまざまところで講演活動を行う。「売り手よし、買い手よし、世間よし、未来よし」、四方よしをテーマに、未来の子供たちへのたくさんの選択肢をのこすべく日々活動を行っている。

エネルギーの自給は、片寄った富を再分配する

株式会社エイワット代表取締役の柴田政明さんにお話を伺いました。

儲かることは、信頼されている証だった

「環境のビジネスをやるまでは、だいたい3年間でなんでも成功させてきたんですけどね。環境はもう12年やっていますが、難しく。そろそろ儲かるかなと。儲かるって言うと皆さん嫌がるんですけど、儲かるという字は、「信じる者」って書くんですよ。何かを売ること、それが人の役に立って、信頼してもらうということですから、本来は素敵なことだと思うんです。お金儲け自体が目的になるのは違います」

明快地答えてくれたのは、大阪府堺市に拠点を置く株式会社エイワットの代表取締役、柴田政明さんだ。

1999年、自社に市民出資の太陽光発電所を設置したのを皮切りに、近畿地方を中心に全国へ向けて市民共同発電所(*1)を広めた。現在は、新エネルギーの技術開発と普及を行い、大阪北部地域に予定されている次世代エネルギーパークのプロジェクトへのコンサルティングなども手がける。そのスタートはどこにでもある小さな町工場だったという。

「先代の父がつくった会社で、金属加工を行う40坪ほどの町工場でした。僕は、本当は会計士になりたいと大学で勉強していたんです。でも、父が倒れたので、親孝行のために入社しました。25歳の時です。父が鉄工業で苦勞していたのを知っていましたし、中学時代から手伝っていて仕事の内容もわかっていたから、僕の人生は終わったと思いましたね(笑)」

とは言いつつも、「常に一生懸命やりたい。自分の能力を100%出したい」という思いがあった柴田さんは、加工する前の金属材料を100キロ抱えて、車の荷台に運び入れるような仕事をしつつも、仕事の効率を考え、従来通りの工場のやり方を見直し、新しい技術へ目を向け続けてきた。そうしたなかには、防衛庁の仕事や原子力開発のための部品づくりもあったという。

「僕は、反原発じゃなくて、脱原発。現実問題として原子力に恩恵を受けていることも認めなくては。とはいっても、とても危険なものでもあるので、原発から自然エネルギーへシフトを変えていきたいと思っているんです。賛成派も反対派も、お互いに反発し合うんじゃないかとベクトルを前に向けられたらいいですね。そのために議論しなくてはけないし、相手を許す必要もある。僕は、危険な思いをして原発に関っている人たちも知っています。ですから、その方々に感謝する気持ちも大切にしなければならぬと思っています。ものづくりをしているからこそ言えるんです」

確かに、一度受け入れてしまった巨大なシステムに対して、反対を叫んでいるだけでは前に進まないとも言える。システムと関わることで問題点を研究し、修正することができるのかもしれない。

日本を支えてきた中小企業が疲弊している

柴田さん自身、問題点の修正を常に行ってきた人でもある。行き詰まりを見せていた従来型の金属加工業にあって、将来性のある「ものづくり」を模索することは死活問題だった。試行錯誤しつつ、太陽光発電と風力発電のハイブリット・システムを完成させ、地元の小学校で『自然エネルギー授業』を行った。

「子どもたちが、太陽光発電で噴水が出るのを見て、『おっちゃん、どこかに電線かくしてるんちゃう?』って言うんです。風車が回って電気が生まれることに、みんなが感動するのを見て、感動しました。このわくわくする思いを全国に広げていけないだろうかって」

本格的に自然エネルギーを事業化していくことを決めたまっかけは、1997年に環境への取り組みと新エネルギー施設の視察で訪れたデンマーク。

「デンマーク、ドイツ、モナコへ行ったのですが、自分の価値観が変わりましたね。特にデンマークが印象的でした。人口550万人ほどの小さい国なのに風車がいっぱいある。オイルショックのときに原子

力推進という選択があったのですが、それを辞めたのです(*2)。元々資源のない国で、土地がやせているから酪農しかできない。地下水が飲料水なので、地層汚染を避けるために、家畜のし尿などをタンクに入れて夏まで置いて施肥をする。そうした状況のなかで、タンク内のメタンガスの発酵で発電し、熱は暖房に利用するというように、エネルギー自給率を目覚ましく向上させました。エネルギー資源がないからこそ、知恵を出し合い、みんなで支え合って、ハッピーになる方法を考えたんです。エネルギーだけじゃなく、福祉も100%ですし、学費も無料。国民は財産だから国が守るわけです。日本とはまったく反対。自殺者が年間3万人もいる国なんて、豊かとはとても言えない」

特に、日本の中小企業の疲弊は深刻だ。大企業を支えてきた中小企業を救済しないと日本は一気に足場を失う可能性があると言う。

「中小企業は、安価に叩かれ、しかも納期を急かされる。政治家も頂点にいる経団連などの言うことしか聞かない。大企業は、経営が傾いたら民事再生法が適用されるし、トップは退職金ももらえる。でも、中小企業はそうはいかない。ものづくりの現場が大事されないで大きくなったピラミッドが、いまの日本の社会だと思うんです」

頂点の部分だけの成功がクローズアップされ、そこで膨大な利益が生まれてきた。ところが、それを支えてきたものづくりの現場、基盤が失われつつあるのだ。

「疲弊している業界に、若い人が入ってくるはずがない。いつの間にかピラミッド形がダイヤモンド形になってしまう。中小企業をなんとか活性化しなくてははいけません」

だからこそ、柴田さんは現場から声を上げてきたのだ。

「黙って下請けでやっているだけでは、大企業や銀行から叩かれる一方です。生き抜いていくために、僕は直接マーケティングもしたし、政策も勉強しました。音楽で言うなら、作曲だけができてもだめで、自分で歌えなくてははいけない。シンガーソングライターにならなくてはあかんということです」

地域を元気にする"村の鍛冶屋プロジェクト"

柴田さんはいま、全国のものづくりの現場をコンサルティングしていくことを考えている。

「名づけて"村の鍛冶屋プロジェクト"です。町の電気屋さんや鉄工所など、地域に根ざした商店や製造業があります。そういうところも時代に合ったアイデアや技術力があれば生き抜いていける。構想としては、自然エネルギー設備づくりと、設置できる技術の提供です。全国300カ所ほどにエイワットをフランチャイズ化して展開していきたいと思っています。私たちとは違う業種であっても、住宅工務店が地域の木材を使うことでカーボンオフセットできるようにする、技術を次の世代がきちんと受け継いでいけるようなマイスター制度をつくる...アイデアはいろいろあります」

雇用はもちろん、文化も食も、いまのように何もかもが一局に集中するのではなく、それぞれの地域で魅力あるものが出てくるかもしれない。

「例えば、シングルマザーがいて、本当は実家に帰りたいが田舎には職がない。そうした情報をネットワーク化して解決するために、地域のメディアが生まれていく可能性もある。アーティストも東京へ出て行くんじゃないかと、これからは自分の生まれ育った町を拠点に活動したらいいんですよ」

地域が自立し、活性化していくためにも、エネルギーの自給は欠かせない。

「高騰が予想されている石油にいつまでも頼るんじゃないですか。雇用が生まれる大チャンスですよ。仕事がない人に失業保険を払うのではなくて、こうした新しい産業や地域活性化のためのプログラムを学べるインターシップに行って、次のステップのための勉強をしたらお金払う制度にすればいいんですよ。そうじゃなかったら、町を掃除したらお金を払うとか。何か仕事の機会を与えればいい。国が企業に雇用調整の助成金を払うんじゃないかと、仕事がないんだったら、開発途上国などへ自然エネルギーや環境保全の技術支援を行う団体をつくることもできるはずですよ」

しかし、大企業になればなるほど柔軟性を持ってないのも事実だ。ものづくりについても、中小企業だからこそ新しい技術開発が可能だという。つまり、大企業の技術力は、他の追随を許さない専門性の高さでもある反面、応用力や柔軟性という面では足かせになることもある。エイワットのような中小企業は、そうしたさまざまな大手の下請けだったからこそ、すべての機械をつくるノウハウを持ち合わせているのだ。

「大学の工学部を出たからといって、図面は引けません。ものはつくれないんです。大学の先生が偉いことを言っても、現場にしかわからないことがたくさんあります。農学博士よりも、毎日畑と関わっている農家の人のほうが野菜のことをわかっているということです」

大企業主導ではなく、もっと小さな柔軟性のある社会……。それが、柴田さんが描く未来の地球の姿だ。

「本来は、農業、林業、漁業などの生産者が、“お金という契約”を司っていて、生産された分と同じお金が発行されていたはずなんです。稀少なものについて相場が高くなるということは、取り尽くさないというセキュリティの役割もしていたわけです。それが、いつの間にか不当な価格操作が行われるようになって、お金が地球のキャパを大きく超えて膨張してしまった。それどころか、数字だけで膨大なお金の取引が行われているわけです。そんなのはおかしい。一握りの人たちのところに集まってしまったお金を、もう一度再分配する必要があります。教育や環境整備に戻していかななくてはいけないということです。世界中で、エネルギー、水、食糧が、地域で自給されれば、大企業主導ではなくなるし、通貨価格に翻弄されることもなくなります。きっと為替の格差もなくなって、物々交換の代わりに発行された本来のお金の価値に戻っていくんじゃないでしょうか」

いつか世界中で、お金の価値が、誠実に作り出されたものの正当な対価となったとき、“儲ける”という言葉は、その本来の意味を取り戻すに違いない。

(* 1) 市民共同発電所

市民が小額の資金を出し合って太陽光発電装置を設置し、電力会社などに売電して利益を還元する試み。株式会社エイワットは、自社工場の屋根のほか、近畿圏の各地で保育所や店舗の屋根などを使って市民発電所を設置した。

(* 2) デンマークにおける原子力放棄

1973年のオイルショック後に、デンマークでは、電力会社による、全国15カ所の原子力発電所建設計画が持ち上がったが、環境NGO「OOA（原子力発電情報組織）」が草の根的な運動を展開し、社会的な議論を高めて反原発へと世論を動かした。1979年に起きたスリーマイル島原発事故、1986年のチェルノブイリ原発事故を契機に、デンマークは原発放棄を選択し、再生可能エネルギーにより、1972年に2%だったエネルギー自給率を2000年には139%にまで向上させた。

取材：温野 まき

(Ecology online の取材記事より www.eco-online.org/ecopeople/2009/07/shibatamasaaki.php)